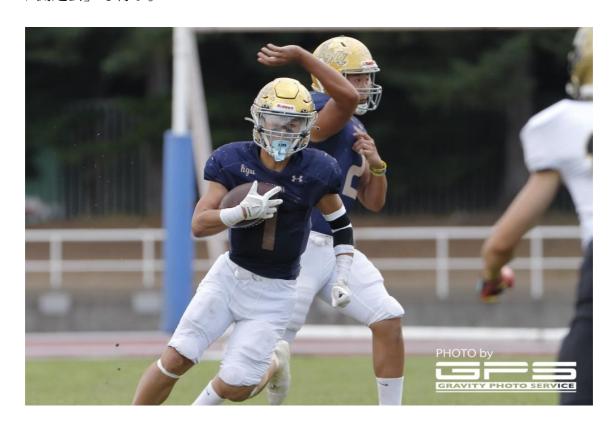
■北海学園大、帯広畜産大が勝利。春季オープン戦第4日

春季オープン戦第4日は7月6日、札幌市円山競技場で2試合を行った。北海学園大(昨秋の道学生選手権優勝)ー釧路公立大(同2位)は、攻撃力に勝る北海学園大が47-18で快勝した。東京農業大(同5位)ー帯広畜産大(同6位)は、帯広畜産大が35-12で逆転勝ちした。春季オープン戦最終日の7月13日(日)は、札幌市円山競技場で北海学園大一室蘭工業大(午後1時開始)を行う。試合に先立ち午前9時半から、体力測定やプレー体験などで高校生にアメフトの魅力に触れてもらう「クロスオーバーアスリート測定会」も行う。



北海学園大一釧路公立大は、北海学園大が開始直後の攻撃シリーズでRB末広大貴(2年)の36ヤードランで先制すると、第1Q3分にRB加藤真之助(4年)の5ヤードランで加点。同9分にもRB加藤の23ヤードランで21-0とリードを広げた。北海学園大は第2Qにも、RB加藤の37ヤードラン、WR八乙女凌太郎(4年)の90ヤードキックオフリターンTDなどで20点を追加。第4QにはRB加藤の4本目のTDとなる3ヤードランで駄目を押した。

北海学園大の高木幸樹HCは「(QB、RB、WRなど)ボールを持つ選手は仕上がってきた。DLは1年生も多く、秋に向けた課題。あと1試合、誰が出てもクオリティの変わらないチームにしたい」と手綱を引き締めた。7TDの猛攻を演出した主将のQB成田

滉佑(4年)は「最初は良かったが後半に失速した。来週の室蘭工業大戦は右肩上がりの チームを目指す」と決意していた。



釧路公立大の伊藤祐介HCは「1年生が活躍したのが収穫」として、QBサックを決めたDE林直希、好タックルのLB山田晃大、好走を見せたRB佐藤蓮など新戦力の名を挙げて健闘をたたえた。後半に意地のTDパス2本を決めた主将のQB中西は「北海学園大は唯一勝っていない相手。秋に向けてタックルなど一から見直したい」と巻き返しを誓っていた。



東京農業大一帯広畜産大は、帯広畜産大が第2Q10分にRB宗像海斗(2年)の4ヤードランで7-6と逆転。その後再逆転を許すもが、第3QにQB桂田陽向(4年)の連続TDランで21-12。第4QにもQB桂田からWR後藤永(2年)への23ヤードパス、RB宗像海斗(2年)の2本目のTDランでリードを広げた。

東京農業大は第1Q6分、QB関叶翔(3年)からTE大嶽潤太郎(3年)への20ヤードパスで先制し、第2QにもQB関からWR木村拓海(4年)への30ヤードパスで12-7と再逆転したが、その後は帯広畜産大に攻撃を封じられた。



帯広畜産大の鏡順之助監督は「桂田が活躍し、OLのブロックの精度も上がった」と手ごたえを実感しながら「秋に向けて体力アップを」と選手たちに期待した。2TDラン、1TDパスと攻撃を牽引したQB桂田は「先発QBの故障で2週間前から準備してきた。TDはOLの頑張りのおかげ。秋はWRとして頑張りたい」と力を込めた。

東京農業大の藤沢清芳HCは「1年生を全員試合に出せたのが収穫。貴重な経験になった。秋に向けてOLのフィジカルアップとタックルの改善をしたい」と課題も挙げた。2TDパスのQB関は「TE大嶽はエース。何度も練習したパスだった。今年はレシーバーがそろっているので、優勝が目標」と言い切った。

(学連広報委員 塚田博)